

伝染病、食中毒の多発期です 食品の管理に十分の注意を

毎年保健所に届出される食中毒や伝染病患者は、全国で約5万人ぐらいいます。1年のうちでも高温、多湿で細菌の繁殖が盛んになる梅雨期から夏、初秋にかけて多く発生しています。市内でさきごろ伝染病が発生し19人を隔離しました。

私たちの周囲はすべて細菌のすみかとも云え、伝染病、食中毒が発生する要素は十分あります。なげなく菓子をつまんでいる指先にも数えきれない細菌が付着し、髪や衣服は勿論ほうちよう、まな板、ふきんなど台所用品も細菌にとってよいすみかとなります。肉眼で見えないし、よほどのことがない限り、臭いもない

味も変化しません。見かけだけでない内容の清潔と衛生が大切です。

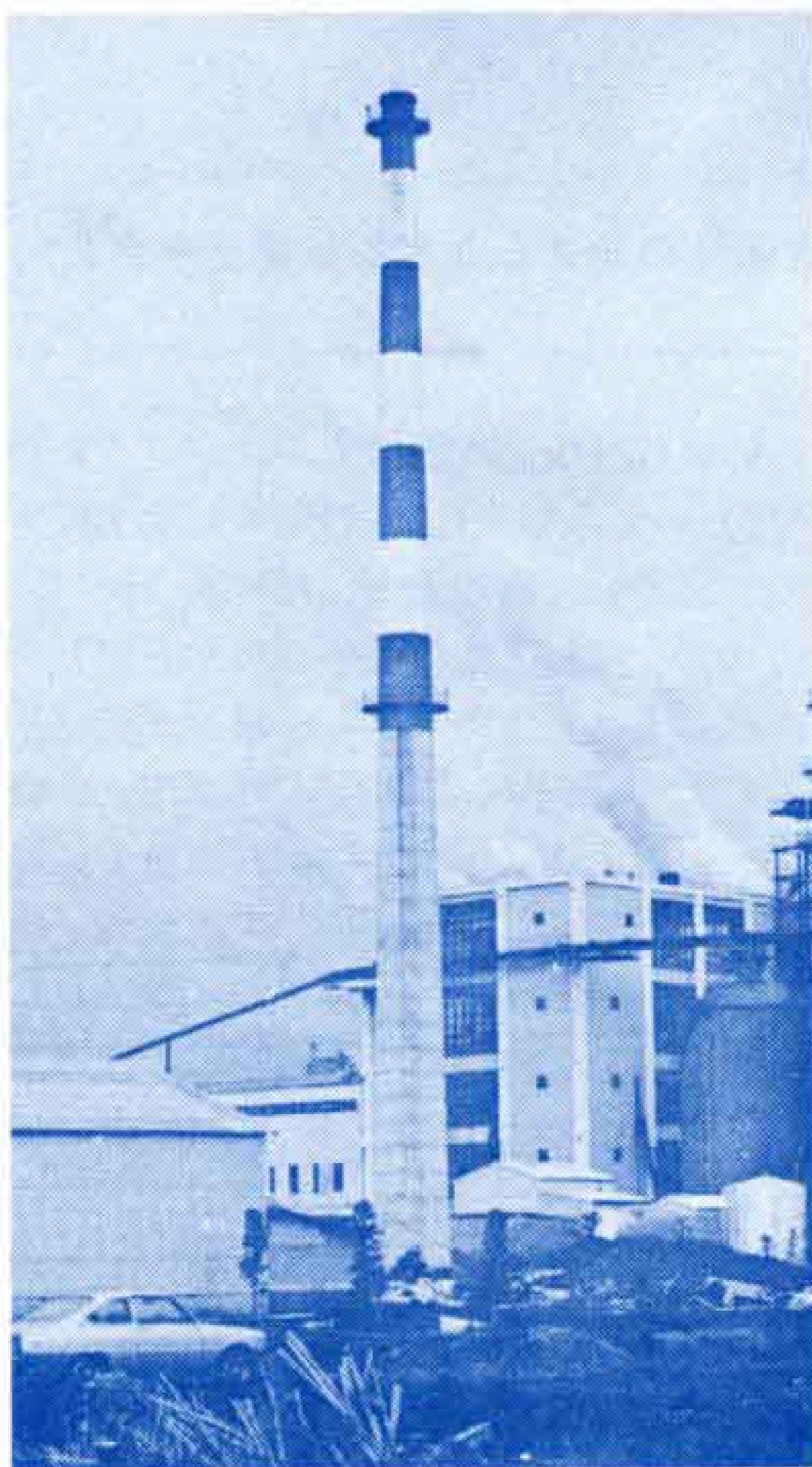
また、現代社会は、食品などの流通機構が非常に複雑な仕組みになっています。食品が人の口に入るまでには、多くの人の手や機械などを通ります。採取、製造加工、使用、調理、貯蔵、運搬、陳列、消費と短かいものでも数日、長いものは数ヶ月たつてようやく消費者にわたります。各段階で衛生保持に十分注意することは当然ですが、消費者も食品の保存や料理などを清潔で衛生的に行なうことは食中毒の予防上大切なことです。

いくら、おいしい食べ物も一夜越すと



味も変り腐敗するかも知れません。料理は早く食べるよう心掛けましょう。冷蔵庫を過信するのもよくありません。冷蔵庫は細菌の繁殖速度を遅らすだけの働きです。

みなさん、家族が健康で楽しく過せるよう食品衛生には十分注意してください



大気汚染の防止に一役

原田地区の8社が共同ボイラー建設

富士市は、大気汚染防止のうち、イオウ酸化物の減少対策として①汚染物質の除去（燃料中のイオウ分を低下させる）②汚染源の縮少（煙源の集中化）③汚染物質の希釈（煙突の正常化）などの方法を指導しています。

このうち、重油中のイオウ分減少については、昭和45年から各企業に強い行政指導を行ない、現在、大手企業1.7%以下、中小企業2.0%以下を目標にしています。煙突の正常化についても、ほとんどの企業の煙源が改善されてきています。

特に、中企煙群の集合については、すでに依田原地区の富士家庭紙共同組合が4社共同のボイラーを稼動させ、その効果をあげていますが、このたび、原田地

区の泉製紙、今泉紙業、大川製紙、豊年製紙、和興製紙、平和製紙、三浦製紙、高尾製紙の8社が「岳陽共同組合」を設立。共同ボイラーが5月20日に完成しました。

この結果、各企業の小型ボイラーを廃止したので、使用燃料は今まで日量25トンだったのが20トンですみ、使用重油の低イオウ化、安くて安定した蒸気の供給など、一石数鳥の目的が達成できます。

市でもこの事業をおおいに奨励し、自己借入金に対して利子補給を行ないました。今後も中小煙源の共同化を指導していく計画です。なお、現在、今泉地区の11社による共同化の指導を進めています。

アメリカンロヒトリが、鷹岡や大淵地区をのぞく全地域で発生が予想されます。昨年アメリカンロヒトリの被害を受けた木や近くに今年も発生しますので、

よく観察してください。いまなら卵か小さな幼虫ですので、

アメリカンロヒトリにご注意 昨年発生した場所には今年も

被害も少く、防止も簡単です。見つけたら、枝ごと切り取つて焼却するなど防止を行なってください。

